

さいせいおたる



社会福祉法人 恩賜財団済生会支部北海道
済生会小樽病院

〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
TEL 0134-25-4321(代)
FAX 0134-25-2888
URL <http://www.saiseikai-otaru.jp/>
発行 和田卓郎 発行日10月1日
編集 広報委員会(中村圭介)



「島武意海岸」

撮影 一條 周一 (写真部)

■目次

- 02 認知症ケアチームの紹介
- 05 済生会健康フェスタを開催致しました
- 06 胆振東部地震によるブラックアウトを経験して
- 07 無料低額診療事業のご案内
- 08 地域医療連携機関紹介 ほか

理念

新たな地域医療の創造と社会貢献

患者中心、患者主体の医療

人を大切にする組織

認知症ケアチームのご紹介

コラム

概要

日本は超高齢社会であり、2012年には高齢者の約7人に1人が認知症と推計され、2025年には約5人に1人が認知症であると予測されています。このため、身体疾患によ



左から認知症専門医 松谷副院長
認知症ケア推進室室長 大橋看護部長

て急性期病院へ入院される認知症高齢者が増加することが考えられます。認知症を持った急性期疾患の患者さんが適切に治療を受けられるよう、病棟での対応力やケアの質を向上させる目的に2016年9月認知症ケア委員会が発足し、2019年4月には名称を認知症ケア推進室とし大橋看護部長を室長として活動しています。認知症ケア推進室は、医師（認知症専門医、認知症サポート医含む）や看護師（認知症看護認定看護師を含む）、社会福祉士、薬剤師、リハビリスタッフ、管理栄養士、事務職員の多職種で構成され、各々の専門知識を生かして上記目標を達成するよう取り組



認知症ケアサポート医（林医師）を中心とした認知症ケアチーム

んでいます。メンバーは医師2名、看護師15名、社会福祉士2名、薬剤師2名、リハビリスタッフ3名、管理栄養士1名、事務職員2名で構成されています。

推進室のメンバーは5つの小チームをつくり、各々に活動を行なっています。

認知症サポート医 神経内科部長 林貴士

認知症ケア加算チーム

当チームでは認知症患者さんへの適切なケアの提供とその評価を行い、病院全体における認知症ケアの質の向上を目指すために活動しています。毎週多職種で話し合いを行い、院内の認知症患者さんを訪問し、適切なケアについて検討・実施しています。また、認知症患者さんの意思を尊重し、その意思を支えるケアが行なえるように取り組んでいます。認知症患者さんが病院という環境の変化の中、安心して治療やリハビリが行なえる様支えていきたいと考えています。

チームリーダー

看護主任 認知症看護認定看護師 佐藤由紀枝

レクリエーションチーム

当チームでは認知症患者さんが快適な入院生活を送れるようにレクリエーション活動を実施しています。

7月はリハビリスタッフと協同し夏祭りを開催しました。輪投げや鉄砲、カラオケなどの催し物や、安全に配慮し個人にあった形態での飲食提供を行いました。普段の入院生活とは違った楽しい時間を過ごせたようで、患者さんには喜んで頂けました。

8月には子供みこしを行い、当院併設保育所のでしこキッズ 50 名程が各病棟で元気にワッショイとお神輿を担いでくれました。

たくさんの患者さんが観覧し「可愛くて、元気になるね。また来年もやってほしいね。」等の声が聞かれ、大盛況でとても喜んで頂けました。

世代間交流の場が失われてきている現代社会で、こういった高齢者と子供との交流は双方にとってとても良い刺激となり、観覧した高齢患者さんの生きる活力になったのではない



かと感じています。

治療やリハビリ目的で入院している患者さんがレクリエーションを通じ良い刺激を受けることで、生きる活力を得ることや認知機能低下防止・維持につながるよう今後も積極的に活動を行っていきたいと考えています。

チームリーダー 認知症ケア専門士 澤田涼子
(4ページへ続く)



認知症ケアチームのご紹介 2

コラム

(3 ページから)

研修会チーム

研修会チームは、当院の認知症患者さんやご家族に対する認知症ケアの質向上を図るために、院内職員を対象として研修会を年 4 回企画・運営しています。

今年度で院内認知症ケア研修会を開催して 4 年目を迎え、院内職員の認知症ケアに対する意識や配慮が病院全体で定着されてきたように感じています。

研修会の企画は、「認知症ケア研修会での学びを臨床現場で活かすことが出来る」ことを念頭に内容を検討しています。

今後も臨床現場で認知症ケアに関して困っている・悩んでいる事へ少しでも役立つような研修を企画していきたいと思えます。

チームリーダー

リハビリテーション室係長 白井美奈子

マニュアルチーム

マニュアルチームでは看護師や薬剤師が中心となり、身体的拘束の実施基準や不穏症状の軽減を目的とした薬剤の適正使用等の内容を検討し、認知症ケアに関する手順書(マニュアル)を作成しています。チーム医療を実践するために、手順書は各部署に配布し周知を図っています。また定期的に評価を行い改訂し認知症ケアの充実に取り組んでいます。

チームリーダー 看護係長 伊藤理恵

身体的拘束・環境整備チーム

認知症患者さんにとって環境の影響は大きく、ケア提供にあたっては安全で快適な環境を調整する必要があります。体調不良や病院という不慣れな環境の変化に適応できず、せん妄という興奮症状・不穏症状を引き起こしてしまう患者さんもいます。当チームでは、そういった患者さんの症状を考慮した対策や環境整備を検討しております。

医療機関では治療が何よりも優先されます。医療安全の確保も重要な課題です。点滴の針や栄養の管を自分で抜いてしまうことを防止するため、医師の指示のもと安全に留意した身体的拘束を施行しています。そういった中で拘束の害を考え、身体的拘束をしない「生きているものは動く」「動くことが生きていることだ」を当たり前を受け止めるケアの文化を育て、ケアの方法を考えています。

環境の点では、人は光により昼夜を判別するため光は1日の生活リズムを整えるうえで重要になります。日中に十分に光を受けることで夜間の睡眠につながります。日中に光刺激が受けられるように、リハビリスタッフと協力して日内リズムをつけていくこと、時計やカレンダーなど時刻や日付を確認できるものを身近に置くこと、趣味や生きがいにしていたことを聞きだし馴染みのもの(ペット写真、家族写真、風景など)をそばに置くことで安心につながる環境づくりを行っています。生活を活性化し、生活リズムを整える環境整備は1人のスタッフでできることではなく、組織として取り組むことが求められるためチームで協力し合って身体的拘束をしない環境整備に力を入れていきます。

チームリーダー 看護係長 岸本悦子

8/25(日)、済生会健康フェスタを開催致しました。

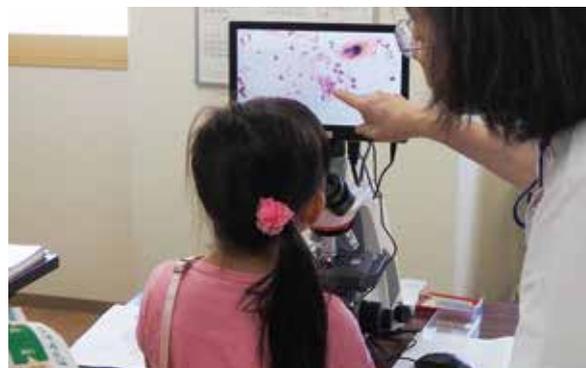
トピックス

健康フェスタでは、例年「病院体験ツアー」や「健康測定会」、「緊急車両試乗会」「お楽しみコーナー」「多世代交流サロン」「チャリティバザー」等のイベントを実施しております。今年度も同様に複数のコーナーを設置し、会場内はいずれも大賑わいとなっていました。今回もスペシャルゲスト・運がっば（小樽市マスコットキャラクター）の登場に、お子さんたちには勿論、大人のご来場者の皆様にも大変お喜びいただけたようです。

さらに屋外イベントとして、小樽潮太鼓保存会による「小樽潮太鼓演奏」、また北照高校吹奏楽部による「吹奏楽演奏」をしていただきました。当初の不安定な天候に心配もありましたが、演奏が始まるお昼頃には快晴となり、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

また外科・木村医師による特別講演「うんこのお話」にはお子さん方を始め多様な世代の方々にもご参加をいただき、講演の終わりには会場からの質問も飛び交いました。

ご来場者総数は 1299 人となり、たくさんの方にご来場いただく結果となりました。多くのご来場、誠に有難うございます。済生会小樽病院は、これからも地域に根差した医療を提供してまいります。



胆振東部地震による ブラックアウトを経験して

事務部 総務課 施設管理G 神山 拓也

2018年9月6日3時7分に胆振東部地震が発生し、小樽は震度4を記録しました。

当院の防火管理規程では、震度5で自主登院なのですが、周辺が停電していたので自主登院を開始、真っ暗な道を徒歩で地震情報を確認しながら、北海道電力の生命線である苫小牧火力発電所が被害をうけていることを知り、「これは長期化するかも……」と不安を感じながら向かいました。

登院後、施設点検を行いました。非常用発電機は正常に運転されており、地震の数日前に落雷による停電も経験していたことで特に現場での混乱はなく、一部職員のみ参集して対応をしていましたが、停電の長期化が予想されたため、7時には災害対策本部が設置されました。8時には職員が通勤してきましたが公共交通機関がマヒしていたため、市外からの通勤者が登院することができず多くの部署で人手不足となり、朝のミーティングで通常診療中止が決定され、災害対応の体制へ移行していきました。



▲救急処置室に設置された災害対策本部

その後、病院周辺地域は発生から14時間後の17時に停電から復旧したのですが、道内の流通回復の見込みが立っておらず、現状の在庫では食料・透析材料の供給不足が予想されたため、道外の済生会施設に支援物資の援助依頼を行うこととなりました。地震発生翌日の夕方に、フェリーで物資が届けられ、対応の速さから済生会の組織力の高さを目の当たりにしました。



▲停電中のスタッフステーションの様子

現在では、支援を受けられるまでの3日間を乗り切るため、患者さんだけでなく働く職員の備蓄食料も確保、周辺医療機関からの受入患者増加を見込んだ材料備蓄も行っており、患者さんの安心・安全に貢献できるよう備えを充実させております。

済生会本部をはじめ、済生会新潟病院・山形済生病院・福島総合病院・北上済生会病院の4施設から多大なご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。



▲支援物資受け入れの様子

無料低額診療事業のご案内

済生会小樽病院では、生活困難な方が経済的な理由によって必要な医療（治療）を受けられる機会が制限されることのないよう、医療費の自己負担を軽くする診療費減免（無料低額診療事業）を実施しています。下記のような方は、相談窓口にお越しくくださるか、看護師・事務職員にお申し出ください。

（どの程度負担を軽くできるかは、収入や必要な医療費によって変わります）

- 病気で仕事を辞めた ●収入が減った ●年金額が低い
- 生活保護に該当しなかった ●非課税世帯 ●借金があり生活困難

基準を満たしているかどうかを判断する為、収支の分かる資料（源泉徴収や課税証明書などの申請者及び世帯全員の収入がわかるもの等）を提出していただきます。この制度の利用をご希望される場合は、“総合案内”（1階ロビー内）にてお申し出ください。医療ソーシャルワーカーがご事情をお伺いいたします。



一つの事例を通して、事業の紹介をさせていただきます。



患者Aさん 60代 年金受給者、貯金なし

ローンなどの支払いもあるし、年金だけでは入院費の支払いが不安。年金を受給しながら生活していたAさん。自宅での作業中に転倒、骨折のため緊急入院。約1カ月の入院予定と説明を受け、支払いのことが不安になりました。看護師に相談したところ、医療ソーシャルワーカーを紹介されました。

医療ソーシャルワーカーに家庭の収支の状況や経済的な相談ができる親族がいないこと等を相談。高額医療養費制度や他の社会保障制度の活用を検討した上で無料低額診療事業について提案しました。

Aさんは無料低額診療事業の申請を行い、後日適用が決められました。医療費の支払いが免除、安心して入院を継続することが可能となり、しっかり治療を受け、退院となりました。

例 減免の対象

国民健康保険
区分才
30日入院

医療費

35,400円
(上限)

食費

18,900円

その他病衣代・
診断書代等

医療費の部分が減免の対象!! → 無料もしくは低額に



※外来の費用も減免の対象となります。ただし、薬代（院外処方の場合）や予防接種等は自己負担となります。

ひとりで悩まないで、医療ソーシャルワーカーへ相談ください！
プライバシーは厳守いたします。

注) 無料低額診療事業はすべての病院で行なっている事業ではありません。済生会病院をはじめとした一部の病院のみで行なっています。

連携医療機関紹介

北海道大野記念病院

社会医療法人 孝仁会



住所: 札幌市西区宮の沢2条1丁目16番1号
TEL: 011-665-0020
H P: <http://ohno-kinen.jp>

時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
13:00~17:00	●	●	●	●	●	●

休診日/日曜・祝日 ※診療は予約制です

院長 大川 洋平

【診療科目】

脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、頭頸部外科、外科、乳腺外科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、脳神経内科、内科、腫瘍血液内科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科、リハビリテーション科

【病院・医院紹介、治療の特色】

2018年9月に大野猛三前院長より引継ぎ、北海道大野記念病院院長に就任いたしました。大野洋平です。今後ともどうか宜しくお願いします。当院は札幌市西区宮の沢にて、がん、脳卒中、心臓病の三大疾病と運動器を中心とした高度急性期病院として、診療を行っております。札幌市西区を中心とした地域医療のため、高度の知識と技術、そして高機能な医療機器を駆使し、患者様に優しく、より安全で苦痛の少ない医療の提供を目指しております。人口の高齢化が急速に進む中、安全で安心な質の高い医療を受けられるようにするために、当院としては、地域から期待される担うべき役割・医療機能を発揮し、かつ、医療と介護を含めた切れ目ない地域との連携を積極的に取り組み、地域から信頼される病院を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

【主要対象疾患】

がん、脳卒中、心臓病の三大疾病と運動器疾患

【専門外来】

脊椎脊髄外来、東洋医学診療科

交通のご案内



■中央バスをご利用の場合

- 「各種系統 ばるて築港線」にて済生会小樽病院前下車し徒歩1分
- 「系統2番・3番 本線 (桜町~高島3丁目)・(新光2丁目~手宮)」
- 「系統6番 望洋台線 (小樽駅~望洋台シャンツェ下)」にて小樽築港で下車し徒歩 10~15分
- 「高速バス おたる・よいち・ニセコ・いわない号」潮見台下車徒歩10分

■JRをご利用の場合

- JR小樽築港駅から徒歩10~15分

施設認定

- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本甲状腺学会認定専門医施設
- 日本神経学会専門医教育施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本手外科学会基幹研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
- JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
- JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設

～ 院 是 ～

恕

じょ
(おもいやり)

～ 専門外来の受診について ～

当院の専門外来は、「他医療機関の紹介状」及び当院の一般外来からの紹介が必要です。また、専門外来によっては「完全予約制」となりますのでご注意ください。詳細につきましては、各科外来もしくは、下記までお問い合わせください。

予約センター専用ダイヤル 0120-489-275 (病院診療日の平日14:00~16:00)